

自ら動き、知的探究心を高める!

研究会紹介

RBSで活動が行われている
研究会と注目の院内活動を紹介します。

01 ビジネスデザイン研究会

熱気に包まれた進学相談会

昨年 11 月 29 日に次年度の受験者に向けた進学相談会が実施されました。このイベントでは毎回、ビジネスデザイン研究会のメンバーが中心となって“院生と話すコーナー”で相談役を引き受けています。今回はメンバーの発案で受験者に対しコーヒーを提供する従来に無いサービスを行いました。これは会場内のやや緊張した雰囲気や和らげるとともに、じっくりと受験生を向き合い RBS の特長を伝えることを狙ったものです。また外国語にも対応できる現役留学生の参加は功を奏しました。今回の試みは単なる



コーヒーサービスに留まるものではありません。ビジネスの現場におけるホスピタリティーの重要性を確認する研究の場になりました。

(13期生代表 阿部 正樹)

02 ホスピタリティ研究会

2014年ワインビジネスプロジェクト

2014年度の活動は、「敷島ワイナリー」をホスピタリティと地域活性化の観点から、実地調査後グループに分かれ、それぞれの提案を実証に向け、討議を重ねることからスタートしました。私たち3名のM1チームは、日本のワインを世界に広める中で、訪日外国人観光客への日本のホスピタリティを実現させる目的で、現役の通訳ガイドを講師としてワイナリーに招待し、ワイナリーガイド経験の講義を、ガイド資格者・立大観光学部生に向けて実施しました。

2015年度は、ワイナリー以外に、テーマパーク・旅館等も視野に入れ、活動を行う予定です。

(13期生代表 小林 伸治)



03 ブランディング研究会

ブランド・マーケティングを学びたい人に

ブランディング研究会は2011年までブランドマーケティング論をご担当されておりました築瀬允紀先生をお招きし、月1回開催しています。RBS生だけでなく外部の方も参加しており、様々な交流が生まれています。

前半はリベラルアーツと題し、時事・経済・文化・芸術等、幅広い分野の話題の深掘りを行います。後半はブランディング講義、グループワークを行っており、直近ではビールのブランディング戦略がテーマでした。ビール市場は嗜好変化や高齢化による消費量減少、プレミアム市場の登場等、市場環境を俯瞰的に検討する必要があります。様々なアプローチが考えられます。短時間で発表までを行うため、各チーム密度の高い議論が行われました。

(13期生 関 晴仁)



問合せ先：branding_study_secretariat@ml.rikkyo.ac.jp

04 アントレプレナー研究会

2015年 新年会

意識の高い創立以来の主要メンバーが揃い、居心地の良い集いとなりました。ゲストとしてテンプレ大学の法務カウンセラーで準教授のThomas.J.Dreves先生と米国公認会計士のBruceさんに参加頂き、英語を中心に意見を交わしました。

アントレプレナー研究会について: 当研究会は2009年の発足以来、ビジネス創出、イノベーションについて考える院生によって構成され、研究活動、セミナー、ビジネスプランニングの分野において学内外でネットワークを保持してきました。現在はRBS OBを中心にセルフガバナンスで運営されています。ビジネスの人脈作りには是非ともご参加下さい。

(13期生代表 戸丸 博友)



留学生だより より良い就職活動に取り組みのために

【覚悟】

- 10年以上など長期的に日本で働く意識を持ちましょう。
- 客観的に自己分析をしましょう。自分の行動原理の把握が大切です。

【具体的なアドバイス】

面接での質問に対する回答準備に早くから取り組みましょう。以下は日本企業から留学生に対するよくある質問です。

- なぜ日本企業に就職したいのですか？
- 日本語や日本文化への対応力についてアピールしてください。
- 10年後、どこでどんな仕事をしていきたいですか？
- 日本で長期的に働く意思はありますか？
- 日本で困った事に対してどのように克服しましたか？
- 日本で働く場合、自分の家族はどうしますか？

多くの留学生が日本企業への就職を希望しています。職業を選び出す過程の中で本当の自分を見つけられる事でしょう。RBS に学んだ留学生の先輩たちからアドバイスを集めました。留学生の就職活動の心がけとして紹介します。是非参考にして下さい。

すか？

RBSの先輩達と活発に交流して多くの経験や情報を活用しましょう。最新の業界分析や企業分析も早めに準備を進める事が大切です。

【就職情報の入手先、おすすめ就職サイト】
立教大学キャリアセンター、リクナビ、マイナビ、日経就職ナビ、グローバルリーダー

(13期生 鄭玉亭)

